「マーケットの浅読み・深読み」
発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫
▼▲▼
◇◆◇　No.0893　◇◆◇　　26/06/03

【　5 月の月間変動は今年最小幅、6 月に脱却なるか注目　】

先日終了した 5 月ドル/円相場の月間変動幅は 4.60 円（155.05-159.65 円）となり、今年の月間変動最小幅を更新した。これまでは 3 月の 4.80 円（155.66-160.46 円）が最小。4 月の売買最終日 30 日は政府・財務省が市場介入に動いたとされ、一日で 5 円超える変動をたどったものの、5 月は月間を通して、それ以下の変動。流れを継ぐことが出来なかった。
さて、そんな5月相場を受けた足もと6月相場だが、正直なところあまり大きく動くイメージに乏しい。実際、5 月末にかけての 2 週間、週間レンジが連続で 1 円未満にとどまったことなども非常に気掛かりだ。ただ油断はせず、大変動へのリスクだけはしっかりと行っておきたいところだろう。

◎「投資家の関心は米ドルより豪ドルや欧州通貨」、だとすると小動き継続も!?

5 月 31 日付の日経新聞に、少し興味深い記事が掲載された。タイトルはと言うと、「FXのドル/円取引、4 月は為替介入でも 4 割減」ーーといったものになる。
タイトルで一目瞭然なように、4 月の話ではあるものの、その要旨は「主要な FX 取引業者の 4 月のドル/円取引金額は前年同月比 39%減」（日経新聞）だったという。そのうえで、同紙は「投資家の関心は、米ドルより豪ドルや欧州通貨に移っているようだ」と指摘していた。

そして、ご承知のように政府・財務省介入は 4 月 30 日だけでなく、5 月にも一度ないし二度実施され、金額も 5 兆円を超えたと推測されるが、前述したような 5 月のドル/円月間変動幅を鑑みると、果たして取引が復調傾向にあるのかは甚だ疑問だ。むしろ、日経新聞が懸念を示した 4 月よりも、5 月の取引はさらにシュリンク。売買が縮小している可能性を否定できない気がしてならない。
いずれにしても、上記のような「悪循環」から 6 月に果たして抜け出すことができるのか、いち参加者として筆者も今月の相場動静を大いに注視している。

さて、以下では月初の恒例となっている過去の経験則を参考にした足もと 6 月の相場動静を見てきたい。まずは月間の星取表から見てみると、過去の 6 月ドル/円相場の勝敗は 1990 年以降昨年までの 36 年間で 21 勝 15 敗だった。
極端に偏っているわけではないが、約 6 割の確率でドル高が有利という結果となっている。2020 年以降 5 年連続でドル高・円安に振れていた展開が昨年途切れたものの、月初のオープンの 144.10 円に対し、クローズレートは 144.02 円でほぼイーブンだった。リスクという意味ではやはり上向き方向か。ドル高方向にバイアスがかかるという気もしないではない。

そんな 6 月相場には興味深いポイントがひとつあり、それは「6 月相場とその翌月、7 月相場は逆方向に動くことが多い」こと。取り敢えず過去 10 年で 8 回がパターンに合致しているだけでなく、過去に遡ると「勝率」はさらに上昇することがわかっている。
したがって、足もとの 6 月は「ドル高 or ドル安のどちらに動く可能性が高い」という話ではないものの、月の終わりに向けては来月「逆方向」に動くことに賭けたポジションメーク、当月と異なる「逆バリ」がヒョッとすると望ましいという話になるのかもしれない。

最後に、6 月を「アニバーサリー」の観点、過去の出来事・ニュースなどで見てみると、なかなか興味深いことが幾つかうかがえる。その最たるものは「英国を含めた欧州を中心として、重要な出来事が起こりやすい」ということだろうか。
具体的には「欧州通貨制度・EMSを再調整（1982 年）」、「デンマークでマーストリヒト条約批准を否決（1992 年）」、「フランスに続きオランダもEU憲法批准せず（2005 年）」、「アイルランドがリスボン条約の国民投票を否決（2008 年）」、「ECBが初のマイナス金利を導入（2015 年）」、「英国が国民投票でEU離脱を決定（2016 年）」ーーなどとなる。

もちろん、毎年確実に起こるものではないことは承知しているものの、たとえば 4 月 22 日の当レターでレポートしたように、5 月に実施された「英地方選で与党が大敗」。スターマー首相は続投への意欲を示して

いるとは言え、選挙結果を受けた強い逆風にさらされていることは言うまでもない。果たしてスターマー政権は、いつまで持つのかといった声も少なくないことも周知のとおりだ。ヒョッとすると、そう遠くないタイミングで政権交代という憂き目に遭うという気もしないではない。

なお、参考までに昨年 6 月の主なニュースや出来事を調べてみると、「ミスター・ジャイアンツと言われた長嶋茂雄さんが死去」(3 日)、「韓国大統領選で左派系・『共に民主党』の李前代表が勝利を収め、3 年ぶりの政権交代達成」(3 日)、「イスラエル軍がイランの核施設などを空爆、現在に至る中東情勢不安の事実上の皮切りに」(13 日)、「日本製鉄が紆余曲折を経たうえで、米USスチールの買収を完了」(18 日)、「和歌山のアドベンチャーワールドで飼育されていたパンダが中国に返還される。国内飼育はゼロに」(28 日)ーーなどとなる。
月間を通して、なかなかバラエティーに富んだ様々なニュースが観測されていただけに、今年も予断を許さない。(了)

▼▲

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆ Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved ◆◇◆

FX-newsletter